

日本クリスチャン・アシュラム連盟

Founded by Eli Stanley Jones

春季号



日本アシュラム

APRIL 1991

United Christian Ashrams of Japan

74

開心・静聴・充滿・献身・奉仕

▼連盟は創始者の祈りによって各地に生れたファミリーの全国的な交わりであって、常に新しい地区(単位)の参加を期待している。



創始三五周年記念日本アシュラム

(於アカデミーハウス)

「神からの平和」

D・P・タイタス

ヨハネ福音書に関心を向けるならば、それはアシュラムの中での問いかけに答えるものであると気づく。インドではこの福音書は基督者のベータンタ(奥義書)と呼ばれている。インドの基督者はヨハネ福音書の深い洞察に心を向けている。ヒンズー教徒や仏教徒は内面的平和についての理解力を持っているが、私達は彼等の求める内面的平和というより、まず神との平和を問題にする。

ヨハネ福音書一四章二七節は、「わたしは平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」というイエスの御言にあるように、イエスが平和を与えて下さる。私達は多くの人々が真の平和を知っていない世界の中にある。政治的状况から考えても、生活環境から考えても、真の平和は存在しない。人人は魂においても身体においても病んでいて、心の中に平安を持っていないで平和を求めている。私達の前に

立ちほだかっている様々の危険は、これまで人類が経験したことのないものである。今日私達は非常に忙しい時代に住んでいて、心の中に平和を求めることを知らない。心に憎しみがあつたり対立があつたりする中では、真の平和は存在しない。深刻に平和が欠如しているのが心の中である。

人が神との間に平和を持つていないならば、その心の状態は真に恐るべきものである。ヒンズー教徒、イスラム教徒あるいは仏教徒、その他何らかの信仰を持っている人々なら、基督者と同様に罪あるところに平和は存在しないことを認めている。罪は神に対する叛逆である。また罪は神に対抗する本性であると同時に、お互い一人一人に対する反抗である。罪はまた社会に対する反抗でもある。男も女も社会に反抗して自己中心の生活をするところから平和は生まれない。人類の究極的永遠的目標は、平和を求めていくことである。宗教の世界においては、平和は神

からのみ来る。平和は神の賜であり、恵みである。ヒンズー教徒や仏教徒達はカルマ(業)を問題にするが、カルマは人間の行為であり従って行為から真の平和は生まれない。キリスト信仰に立つ者は、すべてが神の賜であり恵みであると確信している。私達の救いは神から来る。私達の救いも救しも神から与えられ、潔められることも恵みであり、喜びも平和もすべては神の賜である。

私達は聖書の中でひとりの大切な人物に出会う。これがイエス・キリストである。キリストが行き給うところ、どこにでも平和を人々にもたらす。他宗教に於て一人の人格が平和をもたらすことはない。しかしイエスの行くところ、どこにでも平和が生まれる。弟子達はイエスと共にガリラヤの海に舟出し、嵐にあつて死ぬばかりであつたが、イエスが共に居給うたゆえに、そこにも平和が存在した。またイエスは飢餓の状態のただ中であつて平和をもたらされる。五千人の人々が飢えていた時イエスはその中で平和を与えられた。私達は一二年間長血をわずらつていた婦人が、イエス・キリストに出会つて「安心して行きなさい。すっかり治つて、達者でいなさい」と言われ平安を得ることができた。またイエスは死者の中にも平和をもたらした。ヤイロの娘が死んだときイエスが「タリタクミ」(少女よ起き

理事 堀江 淳一
編集人 大石 嗣郎
発行人 大石 嗣郎
定価 一部 60円 千 60円

なさい」とおっしゃって少女を生か返らせ、その家庭に平和が訪れた。キリストの訪れるところどこでも平和が生まれた。

ヨハネ一四章二七節にイエスは「わたしは平安をあなたがたに残して行く」とおっしゃっている。どのようなにして私達は平安を受けることができるか。私達は聖書を読むだけでは、たとえ神学校に行ったとしても、平和を得ることができない。いかなる種類の活動をして、活動そのものによって平和を得ることはできない。

イエスが「わたしは平安をあなたがたに与える」とおっしゃった如く、平和はイエスからの賜である。私達がなすべき唯一の業は、イエスからの平安を受けることである。全世界がイエスの平安を受けとるならば、世界に平安が訪れるのであるが、これはたいそう簡単であるがまた非常にむずかしいことである。

私は長年キリスト教界で生活してきたが、私の知る限り多くの基督者が未だ内面の平和を持たないで苦しんでいる。私はインドのミッシン系の神学校に関係してきたが、そこで学位をとろうとして学ぶ多くの人達の心の中にも、真の平和が存在しないことを知っている。真の平和を見出した人は、神を見出した人である。もし神学校で一生懸命勉強した結果、心の中でキリストに出会うならば平和を得ることができる。しかし残念なことに私の知っている限り

では、神学校に学んで聖書のことをよく知っている方が、実際に心の中に平安を持っていないことを知っている。従ってそういうところには、内面的戦いが依然として続いている。救いはどこにあるか。死後の世界はどうなのか。いろいろな疑問が次から次に起って、彼等は心に平安を持つことができない。

しかし幸いなことに私は二三才の時真の神キリストに出会い、心に平安を頂いた。それ以前の若かった私は、真の宗教はどこにあるか。真理はいつたい何かと問い続け心に平安が得られなかった。しかしそういう戦いの中で、私はキリストに導かれて真の神を知ることになった。そのとき真の平安が私の心に訪れた。それから五十年間、私にとってキリストは真の神か否か。どこに救いがあるか。死後の世界はどうかなどということは全く問題にならなかった。それは私の心に平安が豊に与えられていたからである。この交わりの中にも私と同様に神からの平安を頂いている方が居られると思う。そういう方々にとって、神はいつたい何であるか。イエスはどのようなお方か。救われているかいないか。天国に行くか地獄に行くか。そういうことは全く問題にならないのです。

兄弟姉妹どうか覚えてもらいたい。私達が住んでいる世界のキリスト教徒達の中で、半分以上の方が真の平和を持っていないということ

です。彼等は何故自分が基督者であるかわかっていない。私達はそうした中でアシュラムにまいり、神の驚くべき御業の中に身を置かせて頂いている。私達弟子として召されて頂いているキリストの僕達一人一人に与えられている使命は、仲間の教会の人達でまだ真の平和を持っていない人々に、神の賜の平安を示してゆくことである。私達の家族の中にも魂の平安を持っていない者がいる。また私達の住んでいる社会には信仰を持っていない人々が沢山いる。私達すべてが主の使となつて、まだ魂に平安がなく反逆を続けている人達に向かって、真の平安を促す使命が与えられている。私達はまた多くの人々が神からの平安を受けるようにアシュラムにお招きしなければならぬ。これは私達の業によって、神学の勉強によってなされるのではなく、神からの賜として与えられる時初めて平和の喜びを受けることができる。

生涯に於て私はしばしば神の賜に満たされた思いを深くしたことがある。以前重い病氣にかかり一ヶ月入院していたが、イエス・キリストの平和がつねに私と共にあった。私は大家族の中で生活しており、5人の息子達がいる上に5人の義理の子供達がついて、妻の親戚の方も同居していた。ある陽の光輝く美しい日、妻や息子の嫁達が語り合っていた。この困難な時代の中でどうしてこのように楽しく語り合っているのかと私

は問いかけた。そしてその会話の中で私は私に与えられた平安これは神から来たものであると彼等に言った。

その時インドではあちこちでテロリストが汽車やバスに爆弾をしかけ人々が負傷するという非常に不安な時代であった。ある日私がアリーに来た時、私の乗った満員バスの後方のドアが大爆音を発し壊れ、人々は命からがら逃げ出した。その状況の中でも私の心には深い平安があつて、恐れなくそこに居ることができた。

私はキリストを持って居る。私の人生の中で神の平安が次々と与えられた。神学に於て活動に於て神の与え給うた平安は、私の罪がイエスに赦されたことによつて起つた。

イエス・キリスト、神の御子が私のため生命を棄てて下さつたために与えられた平安、聖書がヨハネが証している平安を語っていきたい。このアシュラムに出ている方の中で、真の平安は神から与えられるということがまだわかっていない方は、どうかご自身を神に献げて、神からの平安をしっかりと受けとめて下さい。このことはこのアシュラムにおいてもどの教会においても起り得るので、日曜日から日曜日毎に主イエスは、「わたしは平安をあなたがたに与える」とおっしゃって、あなた方の心の戸を叩きあなたを訪れようとしていらつしやるのです。

(以上神田駿河台二一〇・C.C.ビル内
パラビジョン録音テープより)

A PRAYER FOR PEACE

God of all the earth and Father of the human family, we turn to You, our only hope, in the name of the Prince of Peace our Lord Jesus Christ. We are helpless to stop the world's mad rush toward destruction and death. Forgive us our folly. Guide us and restrain us by the power of Your Holy Spirit. We ask Your divine intervention for peace while we enlist our powers for justice, righteousness and unity among all humankind. Jesus Is Lord! Amen.

The United Christian Ashrams



世界アシュラムの標語

(コリント第一書十二章三節)
(ピリピ書 第二章 十一節)

平和への祈り

全世界の神、人類家族の父よ。私たちは我らの主イエス・キリスト平和の君の御名によって、我らの唯一の希望であるあなたに心を向けます。私たちはこの世が気の狂ったように破壊と殺生に向かって突進するのをやめさせる力がありません。

どうか私たちの愚かさをお赦し下さい。どうかあなたの聖霊の力によって、私たちが導き、制御して下さい。私たちが全人類の間に正義と一致の力を結集する間に、あなたが平和のために聖なる干渉をして下さい。イエスは主である。アーメン。

国際クリスチャン・アシュラム委員会

アシュラム生活の最良の友 アパ・ルーム

(年6回刊行の日々の糧)

国際的、超教派的、霊的な読物

価220円 72円, 年1,752円

発行所 (256) 小田原市国府津3-11
振替口座 (東京) 1-193834 アパ・ルーム
日本語版は創刊以来41年続行中

アシュラムの守り方(7)

讚美と証し

海老沢宣道

朝ごとにまず目を覚ました時、起床しつづ主イエス様に、朝の御挨拶をする習慣をつけましょう。誰でも家族とはよく「お早う」と言いますが、イエス様にまず最初に御挨拶をすることは、「イエスは主である」との信仰を生活の中で実行することになります。

次に聖書を開いて主の御声を静聴する時も、自分の主観で聖句の中から気に入ったものを選んではいけません。イエスが主でおられるのですから、主が指示された章句、節を心をひくくして拝受するのです。

その日一日、その御言を心の中で繰り返して奉誦して、その御言を通して注がれる恵みを受け取る時、あなたの心に体に、御言が肉体となって宿り、実を結ぶに至ります。

その時、感謝と讚美の心が沸いてきます。アシュラムでは聖堂で静聴をしたあと、アシュラムの歌をうたいながら、一同そろって食堂へと行進します。食後にも歌のリーダーによって讚美の歌を唱和します。

アシュラムでは全ての時間に盛んに歌います。最近、連盟発行の聖歌集を改訂しましたので、大いに各地で、各教会や家族でも御愛用願いたいのです。主イエスのすばらしいお

恵みを思うと、讚美せずにはおられません。ジョーンズ博士は食前の歌、食後の歌、労作の歌などを作詞して下さいました。また特に讚美の時を、毎日三十分位設けているアシュラムもあり、第二日には、「讚美と証しと祈りの夕べ」を用意している所もあります。アシュラムは決して堅苦しい集まりではなく、全ての罪、重荷、悲しみ、悩みを主に委ね、取り除いて頂いた喜びを持つ者の集まりですから、大いにうたうのです。現行のさんびかの中にも主イエスを讚美している歌が多くありますからそれらを用いましょう。

「証しの時」には参加者の中から恵みの体験を持つ人たち数名に立って頂くように、前日の中に打ち合せをしておくのがよいと思います。信徒の体験談の方が、牧師や講師の説教よりも未信者や初信者には、判り易く強い感化を及ぼします。それだけに立証者はよく祈りの備えをして、かりそめにも自分を前面に出し、自分の信仰、自分の祈りの結果、こんなに恵まれている、と言うのではなく、あくまでも「イエスを主と仰ぎ」「主があなたにどんなに大きな事をして下さい下さったかを語り聞かせる」事です。

第二四回

関西アシュラム報告

古河 治

三五周年記念全国アシュラムに引き続き、関西では次の如く一日アシュラムを行った。

第二四回関西アシュラム要項

日時 一九九〇年十月十日(水)

場所 大阪女学院

主題 「御言葉への静聴と立証」

(詩一一九・一〇五)

会費 二〇〇〇円(昼食と運営費)

参加者六五名(男三二女三四)(教職十三信徒五二)、参加教会二十。

アシュラムの主な内容

開心の時、聖書の時、折りの細胞(黙想の時、分ち合いの時を含む)、充滿の時等である。尚折りの細胞では、参加者全員で、夫々の折りのカードに(聖書の裏側に)署名し合って、自宅でも細胞のメンバーを覚えて折り合う事になっている。

一日アシュラムではあったが、聖書の際に大韓大教会金徳成牧師より「イエスを誰と言うか」(マタイ一六・二三―二〇)と題し、アシュラムの真髄に触れる助言を得た事は幸いであった。

尚本年度は九月一五日(日)―一六日(月祝)兵庫三田市の関西学院千刈キャンパスにて実施される。

本年の関東アシュラム

「企画と展望」

向山 自 助

始めに季刊紙関東アシュラムニュースに就て。本九一年から日本アシュラム誌を大事に活用して行こうと、一応中止して、必要な時は折り込みで報告することになりました。

次は規約に従って委員の任期二年に際し、従来の委員と協力委員を一つにし、その中から若干名(今回は七名)の常任を選出する事に変更。

①アシュラムは九月二三、二四、二五(日)助言者はカナダのGH博士が東アジアを巡回されるとの事で求めない先に与えられ②それに併せて会場を探しました。と申しますのは例の福音の家はミッシェンの教会で駄目になり日時を変える事もできなく、余り遠くても困りますから、ラサール研修所にお願ひ致しました。

ところがこの原稿を書いた時、助言者の都合がつかないとの通知を受けましたので、早速三月十一日(月)に改めて委員会を開き、計画の立て直しを致し只今人選交渉中です。甦えりの主を仰いで従っているわたくしたちです。更に良い事を見せて下さると信じて居ります。折角新しく歩み始めたところですから特別に御祈り願ひます。

第二十二回

城北アシュラム報告

去る二月十一日(月祭)一年間折りを積んできた第二十二回城北アシュラムを新宿西教会にて、ロマ書八章七一―四節「キリストと共同の相続人」の主題の下に、午前十時より開催した。

助言者横山義孝師の「開心の時」を以て始め、アシュラムのオリエンテーションと共に各自のニードを表明し、主への全き明け渡しと主の御導きを求め、続いて七分団七一―二人宛のグループで、各人の具体的ニードを披瀝して互いにとりなしの折りをささげあいました。

昼食には新宿西教会婦人会奉仕の豚汁を賞味しながら弁当をいただき、続いて教会毎に自己紹介を行って一段と親睦を深めました。遠路遙々大阪より(満丸茂師)横浜、千葉より来られた方々を迎え、心から感謝いたしました。

午後は細谷武英師によって、ロマ書八章一一―七節を「静聴」し、キリストと共同の相続人としての特権と恵みにおそれとおののきの感謝を分かち合い、「福音の時」には香港より帰国して七年振りにこのアシュラムに出席された鳥隆三師より、ロマ書七章の自己との苦闘、主にある勝利の讚美を現在の私達の体験として受容するように導かれました。

そして第二回の折りの細胞で「静聴」と「福音の時」とにいただいた主からの賜物をもって各自のニードへの応答を折り求め、最後に海老沢宣道師の導きにより、わがものをすべて捧げつくした心の中に聖霊の満たしを一樣にいただき、全員腕を組んで一つの輪となり、声高らかに讚美して五時過ぎに閉会となりました。

参加一四教会六四名、席上献金八三五〇〇円が与えられ、日本アシュラム連盟と関東アシュラムとに各三万円宛献金することができました。(中村記)

バルナバアシュラム予告
五月二―四日於ラサール研修所
申込先〇二六六(二八)一〇八八

献金報告(前号以降)

関東アシュラム 六〇、〇〇〇円
城北アシュラム 三〇、〇〇〇円
一九九一年三月一日(大石)

◎近 刊 予 告

インド・アシュラムの指導者
D.P.タイタス師著
海老沢宣道訳

『聖霊のパプテスマ』

現代教会が忘れていた信仰上
不可欠の体験を学修する良書・
新書判・約60頁・予価三百円

▼アシュラムとは故スタンレー・ジョーンス博士がインドの退修方式を取り入れて創始
キリスト教の新しい祈禱生活運動である。

東京都目黒区中央町1-21-10
日本クリスチャン・アシュラム連盟
阪神口壱東東1-4-5(五反田)